



「評判は最大の推薦状」

第21代校長 塩原 正美

3月30日に横浜の桜が満開となり、桜前線も日本列島を北上し各地で平年より早く開花が宣言されています。横浜ではすでに葉桜となっている枝も見受けられるようになりました。春は卒業式や入学式が行われる季節で、出会いと別れの季節とも言われます。一人ひとりがこれまでの道から、別々の道を歩き出し希望に胸を膨らませ、新しい環境で生活して人と出会っていくからではないでしょうか。人生は平坦な道ばかりではないけど、困難に直面したり挫けそうになったりすることもあります。平坦でない人生を歩むことで困難に立ち向かえる力、問題解決のための力を養っていきけるのではないのでしょうか。

4月6日に商工103期生が入学しました。新しい制服を身にまとい、不安そうな表情を浮かべる生徒や、希望に満ちた顔をしている生徒などさまざまでしたが、君たちの前途に幸あれという気持ちで式辞を述べさせていただきました。

式辞の中で新入生に特に伝えたかったことは、「評判は最大の推薦状」という言葉です。この言葉は、本校第8代伊藤良彦校長（昭和49年～昭和56年）が残した言葉です。学校に寄せられる、地域や上級学校、企業からの良い評判は、商工生の大きな支えとなり、自分の母校に対する誇りとなります。一人ひとりの生徒が商工生として、また代表であるという自覚を持ち、地域、社会から得られる良い評判は、校長が発行する各種推薦状に勝る、最大の推薦状となるということです。

日々あらゆることに興味関心を持ち、疑問を感じたら繰り返し追求して何事も自分事としてとらえ自分ならどうするか考え日々成長を目指すことが大切です。考えることをやめた時、諦めた時に人の成長は止まる。若いときに経験したことは、これからの人生の糧となり、視野を広げ人生の羅針盤となります。商工高校という場所に集った仲間たちと、一緒に失敗を繰り返し、一歩ずつ未来へのチャンスの扉を開いてみましょう。

新年度を迎え、今の新鮮な気持ちを忘れずに1年間過ごしていきましょう。